幅広い知識の習得と図書館

長坂　康史　学長

本学附属図書館の開架総蔵書数は約93,000冊。さまざまな種類の書籍を所蔵している。皆さん一人ひとりが目指す分野の専門書はもちろんのこと、将来、社会で活躍するために必要な知識を広めるための専門書以外の書籍もたくさん揃えている。そんな図書館を十分活用してほしい。

例えば、資格が仕事と直結する分野では、資格取得のために全力を投じる時期もあるだろう。さまざまな資格があるが、大学在学中に取得できるものについては、是非挑戦してみてほしい。現在、資格取得を目指す学生のために、資格就職コーナーには1,500冊以上の書籍を揃え、皆さんの利用を待っている。また、例えばTOEICなどの専門以外の資格に関する書籍も揃えている。

一方、皆さんの大きな関心事の一つは就職活動であろう。初めての経験で不安は大きい。その不安を少しでも解消するために、上記コーナーには就職活動で活用できる書籍も数多く揃えている。キャリアデザインに関するものから履歴書や面接に関するものまで、実に多くの情報が一箇所に集まっている。

図書館は自分の知識の幅を広げる絶好の場所である。普段は訪れない分野の書棚にも足を運んでみよう。そして、これまで手にしなかったような書籍に手を伸ばしてみてほしい。社会では一つの専門分野を知っているだけでは決して良い仕事はできない。一見関係ないと思われるような知識であっても幅広い知識を持つことが良い仕事につながることが多い。そのために、日頃から異なる分野の知識を吸収することも意識してほしい。それができるのが図書館である。

大学は自由な学びの場である。自分の興味の赴くままに、時には普段手にしないような書籍にも触れながら多くの知識を吸収し、社会に貢献できる技術者になってほしい。

「働く」ことの意味を図書館で考えてみよう

松川　弘　館長

私たちは、はたして「働く」ことに喜びを見出せるでしょうか。私たちは、一体何のために「働く」のでしょうか。

かつて、「働く」ことは、私たちの生活の中心を占めていました。職場は生活の糧を得るための場所であると同時に、自己実現の場所でもありました。しかし、今はどうでしょう。産業の構造が変化し、生活のスタイルが多様化するなかで、「働く」ことの意味、労働観も確実に変貌をとげているのです。

「働く」形が変容し、他の人間活動との境界が曖昧になっている今こそ、私たちは、「働く」ことの意味について自分なりに考えてみる必要があるように思います。

「働」という字は、「人」と「動」から成り立っていますね。人が動くわけで、この字は、「人が何らかの行動を起こす」と解することができます。それでは、どんな行動が「働く」ことになるのでしょう。

「働く」ことは、私たちの個人的な営みではありません。「働く」ことで、私たちは、直接・間接に人間関係のまっただ中に置かれます。その意味で、「働く」ことは社会的行動であるともいえます。つまり、「働く」ことは、物であれ情報であれサービスであれ、有益な何かを他者に提供することによって報酬を得ることであり、他者との関係のなかで自己の存在を保ち、自己を確立することにつながっていくのです。

みなさんには、資格取得や就職にかんする書物を手にする前に、まずは、自分自身を見つめ直し、自分にとって「働く」ことは何を意味するのか、じっくり思いをめぐらせて頂きたいと思います。

そうしたみなさんの思索をサポートするさまざまな書物を用意して、図書館はみなさんをお待ちしています。